

# 家庭保姆の選擇

中村 五六

教育と云へば小學校中學校などの様な或特別な教育場で行はるものでなければならぬ様に考へて居つたのは、ついでと昔前の事で、當時家庭教育だとか小學校以前の教育だとか云ふものは、とんと世人の眼中にはなかつたと云つてもよい位で、唯僅かの教育關係者が頻りと鼓吹したに過ぎなかつたのが、何うでせう、今日此盛んなる有様は！實に明治四十年は家庭教育、幼児教育の大に發展す可き時期だらうと思ひます、否大に發展させなければならぬものでせう。吾々職に此途にあるものは一大發奮して斯道の爲めに盡さなければなりません、そこで斯くも幼児教育發展の機運の向ひ來ると共に益大なる注意を拂はなければならぬのは、幼児教育者其者を改良し之をして完全なるものとならしむ可きことです。幼児教育者即ち現

在の所謂保姆なるものが何時迄も不完全であつては、逆も教育は完全し様がありませぬ。従つて完全なる保姆の養成と云ふことは、刻下の急務であります。然るに我國には未だ此種の師範設備が何處の地方にも欠けて居ると云ふのは實に遺憾なことであります。併し一方から考へて見れば之も無理はないのです。教育の最急務たる普通教育機關即ち小學校、中學校等の施設に逐はれて比較的急を要さなかつた方面を閑却したので多少恕す可き理由があります。併し完全なる教育は如何にしても完全なる基礎の上になければ築かれない筈のものですから、進んで我子の完全なる發達を望まらるゝ方は家庭教育、即ち幼児教育を輕々に看過しない様になるのは、當然の事で、今日上流社會に於ける家庭教育改良の流行も決して偶然ではありませぬから我輩は何うかして完全なる保姆を供給したいものだと思ふ苦心して居る次第です、そこで我輩は是等の家庭から、適當な家庭保姆招

聘の依頼に接する度に常に一方には國家の爲め大に祈喜の情に耐えないと同時に一方には其撰擇に關して何時も大に困難を感じて居のであります。何故困難を感じるかと云ふと今日の多くの所謂保姆と云ふのは第一に其素養が極めて低度の普通教育より外ないと云ふこと、第二には皆多くは幼稚園の保姆としての修養はあつたが家庭保姆としての修養のないことであります。

斯く云ふと人は云ふかも知れない。幼兒を看護する位に何も高等の教育はいらないではないかと然り誠にそを以て我輩とても何も高等な専門の學術を極めると云ふのではない、併し少くとも家庭保姆たるものには高等女學校程度の教育は之を要するのでは是より以下の學力では逆も多方面な幼兒活動を指導するには足りないものです。即ち完全なる家庭保姆としては少くとも小學校本科正教員たり得る丈には普通學を修得しなければなりません。一寸子供に博物上の花や實に就てお伽ばなし

をするにしても、學術上の智識と衝突した間違だらけの俗説や、迷信を其儘堅く注ぎ込まれたのでは從來眞正な教授をする時に何の位邪間になるか知れませんが。保姆に高等教育が要らないと云ふ人は幼兒に學術を授くる必要がないからと云ふのでせうけれど、吾々だつて勿論幼兒に教へるので必要だと云ふのではなくて一つは誤つた先入觀念を造らぬ爲めの用心と一つは幼兒の觀察力を誘導し其興味を刺戟するのに、後來進入す可き所を知つて居る人のするのであると云ふ意味から唱へるのであります。今日世に多くの家庭に従事して居る家庭保姆は果して是丈の修養ある人でせうか、我輩は一日も早く是位の家庭保姆が所々の上流社會の保姆中に表はるゝ様したいものだと思つて居ります。現在在是程の修養のない人は勉強して、せめては尋常科正教員位の免狀を取れる位には修養しなければなりません。次に一つ家庭保姆の撰擇を依頼

されて困難することは、現在の所謂保母と云ふものは單に幼稚園の保母としての修養をしたと云ふに止まる丈の人が多くて、家庭保母としては餘りに偏狭で融通がきかないので困ることです。元來家庭保母と云ふものは兩親の教育的活動殊に母親の教育的活動を補助すると云ふのが本來の目的でありますから萬事が其積りで行かなければなりません、勿論或場合には母親乃至父親をも凌駕し説伏して充分な教化力を現はすことがありますが、之は稀に起ること、多くは日常父母の繁忙なのを助けて自ら慈父慈母になり代つて兒童の活動を看護し指導し其身邊の世話を見て遣ると云ふのが本職であります。従つて家庭保母が職責上、研究して置かなければならぬ事、心得て置かなければならぬ事は頗る廣い範圍に亘るもので先づ第一には兒童の生理的方面即ち養育上の理論及方法の研究であります。之が通常の幼稚園通ひの先生ならば普通衛生學一般を心得て居る丈けでも濟むこ

とですが、身苟も家庭保母として慈父慈母の教育共同者たり時には教育上の顧問者たらんとする人では何うしても自ら母の位置に立つても毫も差支ない丈位の養育上の研究をして置かなければなりません。尙遠慮なく申せば兒童をして如何に兩便の習慣を得せしむ可きかと云ふこと迄も考へて置かなければなりません。其他就寢、起床の事や洗面着衣等の自治の習慣乃至は普通看護法なども勿論保母たる人の理想中になければならぬ筈のもので、然るに是程の修養をした人と云ふものは現在の保母（殊に家庭保母たらんとする婦人）の中には極めて稀なので困ります。併しそこは又御方便なもので保母を招聘される方でも是程に考へて注文する人は今の所ないから何うにかごまかして濟んで居りますが、今少し進んで來たらば其時には是位の資格あるものが必要となるに極つて居ますから、修養する人は今から其積りで勉強しなければなりません。彼の家庭保母を以て下女や

子守の少し氣のきいたものの様に自らも考へ、雇主をもそを思はしめて純然たる下女扱ひにされて平氣で居る様な風は將來根絶しなければなりません。之を果たすには保姆の資格が充分右様の理想に達するものでなければなりません。次に家庭保姆として最もよく研究して置かなければならぬ事は兒童の活動の全部を支配すると云ふ事です。何にせよ朝起きて寝る迄の監護指導をするのですから之が保姆たるものは兒童活動の全部に就いて充分正當な觀察と見解とを有し、全極の目的を明に理想し得る人であり尙其上に如何にせば幼兒を此理想に誘導する事が出来るかと云ふことに就て正しい考へ、合理的な手段方法を持つて居る所の人でなければなりません。斯様な教育的的眼光を備へた家庭保姆と云ふものは現在極めて少數なものです。がこんな有り様では折角家庭保姆を招聘して置く甲斐はありませぬから之は何うしても改良しなければなりません。そして子供の

活動の全部に亘つて充分統一した考のあるものを求めなければなりません。之が中々困難です。現在幼稚園などに永年經驗ある人などでも一人二人の少數な子供の側に朝から晩迄付き、りにして能く子供と調和を保つて行くことの出来る人、そして子供に窮窟な感じを與へないで子供の行動を指導する人、小言を云はず聲を荒らげないで自己の命令を果たし威信を保つことの出来る人と云ふものは割合に少くないものです。幼稚園の様な一日一定の時間丈働めれば後は自由に休める處は然のみ有力の人でなくとも出来ませうが家庭保姆は假令時には母親が代理して呉れるとしても夫れは一定して居ませぬから之を勘定する譯には行きませず、従つて殆んど全く休みなしに子供と共に活動する積りでなければなりません。然らば斯様な資格のある人はどんな人であるかと云ふとは少くも高等女學校卒業以上の人で然かも教育學と、保育事項とを餘程實地的に研究した

人でなければなりません。教育學の實地的研究と云ふのは一二冊の教育學書を講義して貰つただけではないので尙此上に實地に練習し工夫し調査することを云ふのです。

以上養育と活動の兩方面に就て相當の考があり技術があれば夫れで家庭保母の技量は充分でありますが併し其人が愈家庭に入るとしてはも一つ調へなければならぬ事があります。之が家庭保母撰擇上に於ける最後の試験で之を満足にパスする程の人を之からの上流社界では大に要求するに違ひないのです。其は何かと云ふと家庭保母其人の人格即ち之です。如何に考へがあり技量があるにしても之を愈實地に行ひ施して効果あらしめることが出来るか出来ないかと云ふことは所詮其人の人格問題です。世間には能く一つに調へると腕前もあり、學識もあり可なり有爲な人であると思ふのに愈實地に働かして見ると一向映へない人があるが是等は多く其人自身が充分の纏

りがつかず。凡べての識見が組織整頓しないために統一した行動を表はすことが出来ないので詰まる所人格の成立が不十分なのである。人格に缺ける所があつては教育は到底行はれるものではありませんから斯様な人は如何程素養があつても役には立ちません。

今後家庭保母を選ばざる方又は自ら家庭保母たらんと思ふ人は以上の三點に殊に注意することが必要でせう。

おはなし

筑紫の媪

一、溺れかゝつた子供

一人の子供が川の中に落ちて溺れかゝつて居つたところ、そこを通りかゝつた人が見付けて、すぐに助けるのかと思へばそうでなく、ゆつくりと話をしかけた。一なぞおまへはそんなに言ふ事をきかなんだ、おまへは川の深い事を知らなかつたのか、阿母さんは其中へ入るなと言つただらう、それにおまへは言ふ事をきかなかつたから罰をうけたのだ。すると子供は「なぢさんどうか早く助けて下さい、あとでゆくり小言をききますから」(廿六頁につづく)